特集

ワークショップってなんだろう？

―自分に気づく　みんなで気づく―

最近，「ワークショップ」という言葉をよく耳にします。
「ワークショップ」とは，もともとは工房とか作業場という意味ですが，
教育の分野では，一人ひとりが主人公となって参加し，
そこでの体験を通して，自分なりの学びを作り出していくことを重視した学習方式のことを言い，
主に「参加型学習」という学習方法を活用します。
人権を学習する場でも，最近，「ワークショップ」が取り入れられています。
あるテーマについてみんなが考えを出し合い，
お互いの意見を尊重しながら共通の答えを作り出していくもので，
豊かな人間関係を築く態度や意欲を身につけるのに有効だと言われています。
今回の特集では，簡単にできるいくつかのワークショップをご紹介します。
ぜひ，家族や友人と体験してみてください。

まずは，実際にやってみてください

ワークショップは頭だけでなく，体も心も使った体験を通して学ぶという学習方法に特徴があります。個々の学習方法を**アクティビティ**といい，テーマや目的に応じてさまざまな手法が用いられます。次の３つのアクティビティにチャレンジしてみてください。

〈ジャンケンゲーム〉

① 最初は勝ち負けジャンケンです。２人１組でジャンケンをして勝った回数を競います。制限時間は１分間です。

② 次は，あいこジャンケン。あいこになるまでジャンケンをしてください。あいこになったら握手をしましょう。

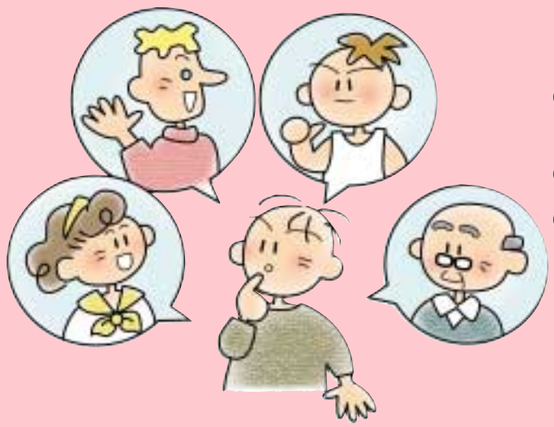
③ ３回目は，後出し負けジャンケン。勝つ側は好きな手を出し，負ける側は後出しで負けるものを出します。何度かやったら役割を交代します。

〈宇宙人がやって来た！〉

① 人間とはどんな生き物かを調査するために，宇宙人が地球を目指してやってこようとしています。みなさんは，宇宙人に人間を説明するための５つの項目を考えてください。

② まず，一人ひとりが５つの項目を考えてください。次に，数人のグループになって話し合い，全員が納得したうえで，５つの項目を決めてください。

③ 各グループの５つの項目を比べて，共通点や違うところ，ユニークな点を話し合ってください。その上で，出てきた項目で宇宙人は人間をちゃんと調査できるだろうか。他の生物とまちがわないか。人間なのに除外されてしまう人が出ないかを考えます。



〈10人の親しい人々〉

① これは一人でやります。自分にとって親しい人たち１０人を書いてください。

② どんな人がリストに上がったか分析してください。

③ １０人の中に家族はいますか？
異性の人は？
障害のある人は？
年齢が１０歳以上離れている人は？
外国籍の人は？

こんなことに気づきませんか？

実際にやってみていかがでしたか。一見すると遊びのような印象を受けるかもしれませんが，それぞれのアクティビティには，自分自身が何か「気づく」ことができるテーマが隠されています。

〈ジャンケンゲーム〉で気づく

最初のはいつもやっている勝ち負けを競うもの。いわば競争ゲームです。勝った人，負けた人，それぞれどんな気持ちでしたか？あいこのジャンケンは，これに対し，協力のゲームといえます。あいこになるにはどんな工夫を考えましたか？うまくあいこになったとき，どんな気持ちでしたか？

最後の後出しで負けるジャンケンは，うまくできたでしょうか。頭ではいつもと違うルールだとわかっても，簡単にはできないものです。一度，身に付いた方法や考えを変えるのはなかなか大変です。人権の大切さは，頭でわかっていても無意識のうちに身に付いた偏見があるとしたら，それを変えるためにはどうしていけばいいのか…。

３つのジャンケンから，どのような違いを感じたか，どんなことに気づいたか話し合ってみてください。

〈宇宙人がやって来た！〉で気づく

現在の社会は，一人ひとりが持つ「人間」に対するイメージによって，その社会の人権の枠がつくられがちです。このゲームでは，みんなで話し合う中で，自分の中にある「人間」に対するイメージを認識し，それらが無意識のうちに偏見や差別につながっていないかを気づくことにつながります。

例えば，「言葉を話す」「道具を使う」「2 本足で歩く」「貨幣を使用する」「文字を持つ」「服を着ている」などがあがりますが，障害のある人や，国や文化によってはそれらが当てはまらない人々もいます。つまり，いかに偏った固定観念のなかで私たちは過ごしているか，無意識のイメージが他人を傷つけていないか，などに気づく大きなきっかけとなるゲームです。

〈10人の親しい人々〉で気づく

これは，自分がどのような人間関係を結んでいるかということから，自分を見つめるためのアクティビティです。「世代が近い」「性別が同じ」「文化的な背景が同じ」など，自分と同じ属性の人を 10 人の中にあげる方が多いかと思います。それはそれでいいのですが，同時に違う属性の人たちに対する理解や認識が低くなりがちではないでしょうか。例えば，自分と異なる世代の人が 10 人の中にいなければ，異なる世代が何を考えているかわかりにくいと思います。

人間関係は，ものの見方や価値観に大きな影響を与えます。自分の人間関係の特徴を分析し，そこから自分に見えにくいもの，見えていないものは何かを考えてみてください。

楽しみながら　身近に もっと考えよう　人権文化

地球市民教育センター　**栗 本　敦 子** さん

ワークショップ（参加型学習）を理解していただくには，“ 学び ”を“ お茶碗 ”にたとえて考えてみましょう。

従来の学習方法は，講師が作った模範解答というお茶碗を参加者に配るというやり方。参加者は全員，先生が作った立派なお茶碗を同じように手に入れることができます。これが従来の講義型の長所です。

しかし，そのお茶碗が必ず使ってもらえるかというと，そうではありませんね。どんなにすばらしいお茶碗でも，その人が使いにくいとか立派すぎると思えば，食器棚の奥でホコリをかぶったまま，活用されないで終ってしまいます。

それに対して，ワークショップは，工房とか作業場というもともとの意味が象徴するように，参加者が自分の中にある材料（体験や考え）を使って，自分なりの学びのお茶碗を作っていくという学習方法です。できたお茶碗（学び）は，愛着をもって大切に使ってもらえるのではないでしょうか。

人権学習において，ワークショップへの関心が高まっているのは，このように一人ひとりが主体的に学びに参加することによって，問題解決に向けた行動に結び付くのではないかと期待されるからです。

ワークショップのアクティビティの一つに，「宇宙人がやって来た」という活動があります。参加者に「人間とは何か」を問い直していただくことがねらいなのですが、話し合いの中で，人間を定義する項目としてよく出てくるのが「2 足歩行」です。教員をしている友人が，肢体不自由児の養護学校でこのアクティビティを行ったときにも，やはり「2 足歩行」という答えが出てきました。自分自身が車椅子を使用しているにもかかわらず，目の前にいる友達が歩けないにもかかわらず……。

私達にとって，人間とは何なのでしょう。人間に普通や例外があるのでしょうか。あっていいのでしょうか。

社会や人権意識を形作っているのは，ほかならぬ，私達一人ひとりの考えやありよう（行動）です。人権学習とは，一人ひとりがその人にとっての「あたりまえ」を問い直しながら，無意識のうちに持ってしまっている枠を，広げようとする取組ではないかと思います。

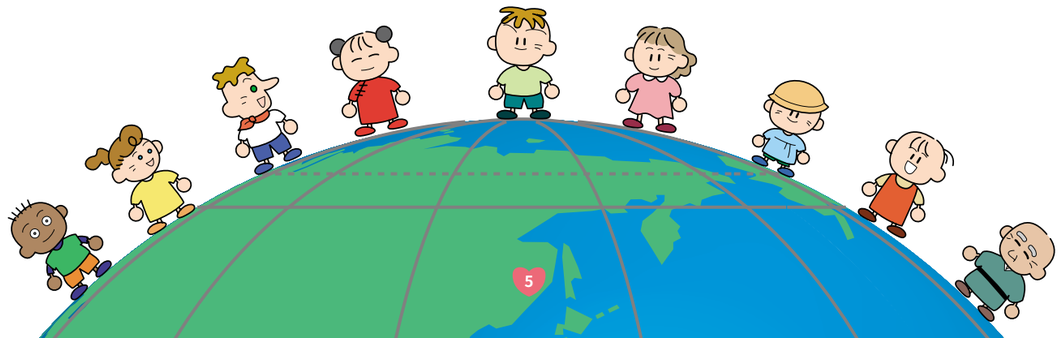
これは差別だから言ってはいけない，してはいけないと誰かが決めたことに従うのではなく，自分がいま生きている社会に起こっている問題について，「私はこう考える」という意見を持つこと。人権が尊重された，よりよい未来を作ることができるのは，私達自身であることを考えると，ワークショップという学びの方法は，これからますます重要に，活発になっていくのではないでしょうか。

身近なところでは，新聞記事などを題材に，家庭や学校や職場などで「どう思うか」を話し合うだけでも，貴重な学びの場とすることができます。

その際に大切なことは，「偉い先生の言っていることだから」とか，「本にそう書いているから」というふうに，正解があってそれをそのまま受け入れようとする姿勢ではなく，「自分にとってこれはどういう意味があるのか」「このことは誰にどんな影響を与えるだろう」というように，それぞれの人が自分に引き付けて考え，意見を持ち，お互いにその意見を尊重し合うことです。

ある人がワークショップでの学びを“ あいうえお ”の学習と表現しています。これは，「明るい・いい気持ち・うれしい・笑顔・おもしろい」雰囲気で学ぼうということ。人権を「堅い・厳しい・苦しい・権威的・こわい」雰囲気の“ かきくけこ ”の学習で緊張しながら学ぶと，人権について考えること自体が窮屈なものになってしまいます。

人権というのは，私達のごくごく普通の暮らしの中で当たり前に大切にしていくものですし，もっと身近に話したり考えたりできるものになってほしいですね。そのためにも，リラックスした楽しい雰囲気の中でコミュニケーションしながら学ぶというのは，とても大事なことだと思います。



愛することを伝えたい

―コソボ難民キャンプの子どものこと そして，21世紀の世界へ願うこと―

ヒューマンボイス

女優・ユニセフ親善大使

黒柳徹子さん

ユニセフ親善大使として長年，各国の難民キャンプなどを訪問され，厳しい状況におかれた子ども達と接しながら，援助の道を切り開いておられる黒柳徹子さん。今年の夏に訪ねられたコソボの難民キャンプのことや，21 世紀への夢などを語っていただきました。「窓ぎわのトットちゃん」はすでに 33 カ国で翻訳出版され，世界的大ベストセラーとなりましたが，「トット」はアフリカで一番広く使われているスワヒリ語で「子ども」という意味とか。小さい時から，将来は子ども達のために働くようお導きがあったのかと，感慨深いものを感じておられる黒柳さんです。

笑顔の子ども達に囲まれた黒柳徹子さん（コソボ難民キャンプにて／撮影 田沼武能）

世界の子ども達に「水・予防注射・読み書き」を

ユニセフは「国連児童基金」という，特に地球上の 87％を占める発展途上国の子ども達のために働く機関です。その親善大使とは，子どもが助けを必要としている国へ行き，現地で子ども達と親善をはかり，特に私の場合はテレビ関係の仕事をしていますので，各メディアを通して，子ども達が本当に困っている状況をたくさんの方々に知っていただくのが主な仕事です。

また，その国の国家元首などにもお会いし，この国は子どもの問題についてどういうふうに困っているか，ユニセフでは何ができるか，そして私は日本人ですから，日本の政府に要望があればお伺いしますというようなことを話し合います。

ユニセフの基本となる大きな仕事は 3 つ。まず，安全な飲み水をあげること。2 つめは伝染病にかからないよう子ども達に予防接種をすること。ただ予防接種といっても，冷蔵庫がないところではワクチンは死んでしまうので，電気のないところで予防接種をするのはなかなか難しいのです。アイスボックスなどにワクチンを入れて保存し，とにかく予防接種をして，伝染病などから子どもの命を守るのがユニセフの希望です。3 つめは，大きな学校を建てたりはしないけれど，最低限の読み書きができるようにすること，つまり教育です。読み書きができることでその子の人生が開けていくのですから。

コソボの子ども達

今年7月末にコソボへ行ってきました。ユーゴスラビア連邦セルビア共和国のコソボ自治州ではアルバニア系住民が独立を要求しているのですが，政府が阻止するために迫害を強めたので，その紛争を抑えようとNATO（北大西洋条約機構）が空爆を始めました。約 85 万人のアルバニア系住民は，コソボを追われて難民となりましたが，6 月に空爆が停止し，ちょうど難民キャンプからみんなが引き上げて少しホッとしたというところでした。

それにしても，よくあんなに壊せるものだというくらい家も店もセルビア人に壊され，電報電信局，郵便局，警察などの大きな建物はＮＡＴＯ軍に爆撃されたわけですから，足の踏み場もないくらいめちゃくちゃな状況でした。

難民キャンプにいた100万人近い人達は，早く離れ離れになった家族に会いたい，自分の家がどうなったか見たいと，すごい勢いで国へ帰りました。難民キャンプへ向かう途中，親とはぐれたり，親を殺された子どもも随分います。父親が銃殺されそうになったところを見て，いまだに夜は１時間以上眠れない子もいます。5 歳のある女の子は私を歓迎するのに元気に歌ってくれましたが，7 歳のお姉ちゃんは両親が殺されたことをまだ妹に知らせていないと言っていました。ユニセフは，精神科医や心理学者を送り込んで，子どもたちの深い心の傷をケアしようとしていますが，時間をかけても大変だということです。

地雷の恐ろしさ

コソボ全体で 100 万個あるといわれる地雷も深刻な問題です。死ぬ子はもちろん，どこの病院も手足をなくしたりケガをした子ども達がたくさん入院しています。学校でもユニセフが中心になり，地雷の模型などを見せて，これが埋まっているからどこへでも踏み込んでいかないようにと教えています。

卑劣なのは，ジュースの缶に仕掛けたもので，先生がジュースの缶を見せて，こういうのが畑にあったらどうしますか？　と聞くと，子どもは「オレンジジュースならちょっとそばへ行って確かめてみます」なんて言うんです。子どもの好きなものにわざと爆発物をしかけるんです。地雷を買うには１個 100 円から 300 円ぐらですが，取り除くには１個 3 万円から 10 万円かかると言われています。そうすると，地球上に埋まっている１億個以上の地雷を除去するには…そして年に 10 万個取り続けたとしても 1000 年以上かかるんですよ。人間て何て愚かなんだろうと思います。

「トットちゃん」が縁で親善大使に

16年前，ユニセフがアジア人のユニセフ親善大使を探していた時，いま国連難民高等弁務官をしていらっしゃる緒方貞子先生が，ちょうど出版された英語版の『窓ぎわのトットちゃん』をユニセフのグラント事務局長に渡して，これを書いた人をぜひ大使にと推薦してくださったのです。

グラントさんは一晩で読まれ，翌日には東京中の本屋を走り回って10冊ほど買ってニューヨークに持ち帰り，これだけ子どものことがわかる人だったらということで，すぐに私に決まったそうです。本当にいいお仕事をいただいたと感謝しています。

その時から毎年必ずどこかの国のことをテレビでご報告し，いままでに皆さんからいただいた募金は29億円以上にもなります。お礼のお返事はしていませんが，どうかご了承ください。もしお返事を差し上げていれば，切手代だけでこの16年間には何千万円にもなります。それだけあれば，どれだけの子ども達が救えるか，わからないのですから。

大きな戦争，民族同士の争いのない21世紀であってほしいですね。

Profile

黒柳徹子（くろやなぎ・てつこ）

東京・乃木坂生まれ。トモエ学園から香蘭女学校を経て，東京音楽大学声楽科卒業後，NHK放送劇団に入団。連続ラジオ・ドラマ「ヤン坊、ニン坊、トン坊」でデビュー。以後，NHK専属のテレビ女優第1号として活躍。現在，24年続いているトーク番組「徹子の部屋」などテレビ番組に多数出演する一方で，舞台女優としても活躍中。社会福祉法人「トット基金」を設立し，プロのろう者劇団を支援する。1984年よりユニセフの親善大使となり，飢餓，戦争，病気で苦しんでいる世界の子ども達を訪ね，その実情を伝える活動を続けている。

すばらしい教育者　トモエ学園の小林校長先生

子どもを心から理解しようとしたトモエ学園の校長先生のところで勉強できたことは本当に幸せでした。小林校長先生がいつもおっしゃっていたのは，身体に障害を持った子どもも，天才的な子も，知的障害の子も，みんな一緒にやるんだよということでした。小さい時から「なんでも一緒にやるもんだ」と思っていると，人間はできるものです。私はポリオ（小児マヒ）だった泰明（やすあき）ちゃんという子と仲が良くて，よく彼を木に登らせてあげたり，階段を上がる時とか，手を貸してあげたのですが，本を読んだり，ものを観察すること，アメリカにはテレビがあることなど，たくさんのことを彼は教えてくれました。みんなで助け合っていくというトモエ学園の方針で生きてきたので，ボランティアという意識はあまり持ったことはありませんね。

ろう者の劇団が大活躍

私はろう者の劇団を支援しています。これも耳の不自由な人も劇場に行けたらいいな，という気持ちで，アメリカでろう者の劇団を創立した友人や，ろう者のプロの俳優を日本に招いて紹介したところ，『トットちゃん』の印税でトット基金ができ，今では，ろう者のプロの俳優が20人ほど育っています。国立能楽堂で手話狂言をやったり，外国公演もしています。最近はテレビや映画で，ろう者を主役にすることも多くなりましたが，山田洋次監督の「息子よ」や，テレビの「星の金貨」，これから上映される「アイ・ラヴ・ユー」など，ほとんどの作品はうちの劇団の耳の聞こえないプロの俳優が手話指導などしているんですよ。

今一番やりたいことは「魔法」

世界の大変な国に比べて日本の子どもに，幸せだと思いなさいとは言いません。ただそういうことを考えもせず，関心ももたず，知らないで自分達を不幸だと思っていることも不幸だと思います。だから少しでも知って，他人のことも考える人になれば，日本の生活も本当の意味で豊かになるんじゃないかしら。いじめなんてしていられないとも気づくと思うのですが…。これからは日本の子どもたちも，世界のみんなと手をつないでいかないと，21世紀は乗り越えられないと思います。自分たちだけよければ，では絶対すまないのですから。

いま一番やりたいこと？　それは「魔法」。木を全部昔のように繁らせて，動物も何もかもフィルムを逆戻しするみたいに全部びびびっと戻す。少しぐらい文明が後戻りしてもいい。そして21世紀は絶対に大きな戦争，民族同士の争いもなるべくないようにと願っています。憎しみではなく，愛することを教えるようにしていかなくては。それを伝えていくのも私の仕事なんです。

★ユニセフ募金は次の口座で受け付けています★

銀　行：第一勧業銀行六本木支店　（普）1546555（口座名）ユニセフ親善大使　黒柳徹子

郵便局：0013－5－8060　（口座名）ユニセフ親善大使　黒柳徹子

人、輝いてまーす！

あなたの声が力になる！

今回は全国車いす駅伝を支えてきた京都車いすスポーツ青年ボランティアネットワークの活動について，副理事長の坂本和彦さんにうかがいました。

毎年２月，真冬の都大路を車いすの選手達が駆け抜けていきます。女子駅伝，高校駅伝と並んで京都三駅伝の一つに数えられる全国車いす駅伝は，今年の大会で10回目となりましたが，そのきっかけは，京都国体に続いて行われた全国障害者スポーツ大会でした。「京都青少年活動推進会議が，全国障害者スポーツ大会に取り組むことになった時，車いすの駅伝競技が京都大会から公開競技になると知りました。初めてなら既存団体もなく，参入に問題がないと考えたのです」と坂本さん。

当時は車いすの陸上競技の歴史が浅く練習場所にも困る状態でした。駅伝大会だけでなく，京都チームの監督から練習のサポートも依頼されたといいます。しかし，この時の成功を機にその後も毎年恒例の行事として行われ，京都青少年活動推進会議が解散した平成８年以降は，京都車いすスポーツ青年ボランティアネットワークとして全国車いす駅伝を支えています。現在ネットには赤十字京都ユースや裏千家淡交会など14団体が参加，毎年約550人のスタッフが大会にかかわっています。

大会前後には駅や空港，宿泊先で選手団の誘導や昇降介助。当日は各中継所への移動介助，荷物管理，レース用車椅子の積み降ろし，無線通信による安全管理など大会がスムーズに進行されるよう随所でサポートしています。中継所でお茶を出したり，ゴールした選手に毛布を渡すなどの配慮もみられます。

十年ひと昔。初回は西大路の上り坂で疲れ切る

京都車いすスポーツ
青年ボランティアネットワーク
副理事長　坂本　和彦さん

選手続出でしたが，今はスピードも驚くほどアップしました。それだけ選手の競技能力が上がっているのです。

「実際，ものすごいスピードで選手は走り抜けます。まさに一瞬。私は先頭の援護車に乗ったことがありますが，あっと言う間に追いつかれ，自分の乗っている車のスピードと照らし合わせてびっくりしたほどです」

大会を支える側も変化が見られます。「赤十字など専門団体が介助方法や応急対応法を参加者にトレーニングした時期もありましたが，今は各団体が主体的にトレーニングを行っています。車いす駅伝が京都の青年活動を行う団体にいろんな影響を与えたのではないでしょうか。既存の枠組みを越えた活動は意味があったと思います」

また第２回大会からは連絡スタッフを一般募集しています。できるだけ多くの人に参加してもらうため，２年以上の参加は受け付けていませんが，それでも100人を越える人が毎年集まるので，参加者は相当な数になります。

「来年は２月26，27日に行います。三大駅伝と言いながら女子駅伝、高校駅伝に比べ市民の関心がまだ低いように思います。ほかの駅伝同様，もっともっと沿道に出て応援してください。あっと言う間に通り過ぎるので応援しがいがないと思われるかもしれませんが，京都チームの選手が，あの速度でも声はよく聞こえると言っていました。地元の応援はとても励みになります。せっかく京都で行われるわけですから，いろんな形で参加してほしいですね」

■編集後記

●「参加型学習」や「ワークショップ」というと耳慣れない言葉でしたが，特集の取材で実際に体験してみると「おもしろい！」というのが第一印象でした。自分自身を振り返るとてもいい機会になりました。特集で簡単な方法を紹介していますので，ぜひ一度，試してみてください（編集担当N）●本誌に対するご意見，ご感想を右記までお寄せください。●この情報誌は，年3回（5月，8月，12月）発行します。

ひと・まち・ロマン　元気都市・京都

発行日　平成11年12月1日
発　行　京都市文化市民局人権文化推進部人権文化推進課
〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る
☎075（222）3381
京都市印刷物第110704号

※この情報誌は，区役所・支所の地域振興課，市役所の市政案内所ほかで配布しています。郵送をご希望の方は，返信用切手（140円分）を同封のうえ，京都市人権文化推進課までお申し込みください。